あつぎ観光ボランティアガイド協会ニュース

七沢森林公園の寸草亭（撮影 阿部会員）

令和３年 ８月号 Vol. 208
（2021 年）
発行：令和３年８月 26 日

あつぎ観光ボランティアガイド協会
ホームページ　http://atugikanvola.sakura.ne.jp
メールアドレス　atugikanvola@yahoo.co.jp
発行責任者　会長　森島 誠　　編集担当者　阿部 啓冊

≪異文化交流サービス説明会≫

行事区分：行事支援
日　　時：７月６日（火）　10:00～11:50
場　　所：アミューあつぎ ７０３
参 加 者：会員４名・県職員１名

異文化交流サービスは、かながわガイド協議会がコロナで活動が十分出来ない状況下で活動の手助けになると考え、加盟ボランティア団体に利用の打診があったものです。

この交流事業は、神奈川県政策局いのち・未来戦略本部室コミュニティ活性化グループの企画により公募を行い（株）Helte 社が運営するものです。

この異文化交流サービスは地域の魅力を直接日本語で外国人と会話ができるシステムで、５団体の利用希望があり団体毎の説明会を行うもので、当会会員３名から希望があり、利用方法の詳細を県担当者により説明を受けました。

説明会では、厚木の会場と県の担当と運営会社担当とをオンラインで繋ぎ行なわれました。

このシステムは、海外で日本語を学ぶ若者とオンラインで日本の紹介など会話を行い、現時点の世界ユーザーからの参加は、118 か国・9,300 人。国内ユーザーは 5,500 人で、国内ユーザーは無料で運営されています。

今後の利用は、個人として登録し利用してもらい、会員で他に利用希望があれば利用方法の紹介をすることになりました。

説明会の後、早速　手続きして会話を試した会員もいました。

（森島誠 記）

会員投稿

船に乗ったお地蔵様

阿部 啓冊

岩船地蔵は、栃木県下都賀郡岩舟町高勝寺（こうしょうじ）に始まるといわれ、同寺がある岩船山の山頂には舟に乗った姿の子育子授地蔵が祀られています。

高勝寺（奥の院）の岩船地蔵

このお地蔵さまは、宝亀元年（770 年）岩船山上に顕現した地蔵尊に出会った僧が建立したと伝えられているそうです。

岩船の名は、山全体の姿が一艘の船のように見えることが由来であるとする説や、高く突き出した岩肌を持つ岩山に霊魂が集まってくると信じられ、その霊を供養するところであったということから、位牌という言葉がなまったのだともいわれているようです。

高勝寺奥の院から眺めた岩山

お地蔵様の姿は、実際に船に乗ったものと、銘に「岩船（舟）地蔵」と刻まれているものがあり、高勝寺を始点として関東を中心に静岡県、山梨県に広がっており、刻まれている銘からそのほとんどが享保 4 年(1719 年）からの数年間に集中的に建立されていることが確認されているようです。

岩船地蔵は、岩船節という念仏踊りとともに関東一円に広まっていきますが、その様子については、町田市野津田に残された「野津田村年代記」から知ることが出来ます。

「今年は、下野の国岩船山地蔵尊から始まった地蔵念仏が流行っており、老若男女が 100 人から 300 人集まり村々を巡っている。中には 500 人になることもあるが皆がおそろいの衣装で、厨子に収まった地蔵尊や岩船山地蔵尊と書いた書付をたてて一日に何度も回ってきては庭でくるくると踊りまわっている様子は、江戸の諸社の祭りより見事である。お代官より地蔵念仏は一切禁止のお触れが出ているが外村から次々とやってきて、六月十九日には小山田村念仏４～500 人、七月一日は大沢念仏、二日には上小山田村、十七日は上矢部念仏・落合念仏、十八日は木曾念仏がやってきた。時には夜も来ることがあり二、三年は野も山も地蔵念仏ばかりである。村々には地蔵が建立された」

地蔵念仏が盛大におこなわれたことを伺い知ることが出来ます。高勝寺ではこの地蔵念仏が現在、各地に伝わっている念仏踊りの起源であると伝えています。

横浜市長源寺の入舟地蔵

栃木県の岩船山から始まった岩船地蔵の村送りは、甲州街道に沿ったルートと神奈川県を南下するルートの 2 つがあったようです。

神奈川県を南下するルートは、武蔵野国と相模国の国境にある境川に沿って南下するものであったようで、横浜市から藤沢市にかけて、何体もの岩船地蔵を見ることができます。これらのお地蔵様は船に乗ったものと、船には乗っていないけれども「岩船」の文字が刻まれたものの二種類が見られ、呼び方も「岩船地蔵」「入舟地蔵」「舟地蔵」など、それぞれの地により異なっています。

大和市深見や同市上和田、海老名市増全寺、社家三島神社にある岩船地蔵は、いずれも船には乗っておらず、刻まれた銘により岩船地蔵とわかるもので、同種のお地蔵さまは厚木市長谷や飯山龍蔵神社*1にもあるようです。

大場城址の舟地蔵

＊１：飯山龍蔵神社の地蔵尊は文献には載っているのですが、神社境内に多くの地蔵尊があるうえ、そのほとんどの銘が読めないため、どの地蔵尊が岩船地蔵なのか確認できませんでした。お地蔵様には「岩船地蔵供養仏　講中１４０人」と刻まれているそうです。

船に乗った姿のお地蔵様は、厚木市では飯山の金剛寺や戸田の善養院で見ることが出来ます。また、厚木市の近郊では横浜市旭区上川井の長源寺の「入船地蔵」や藤沢市大庭城址の「舟地蔵」が知られています。

いずれも、1719 年～1720年頃に起こった岩船地蔵の村送りで建立されたようですが、それから３００年後の現在までの間にそれぞれの岩船地蔵にまつわる話は少しずつ変化してきたようです。

金剛寺大師堂の岩船地蔵

長源寺では、お寺の方から子宝の仏として伝えられていると教えていただきました。また、大庭の舟地蔵は、1512 年の大庭城落城にまつわる老婆の悲劇として伝えられていました。

山梨県では土砂崩れや、川の氾濫に対する守り神、長野では雨乞いの仏、静岡市清水や神奈川県三浦市では水難防止にご利益があるとして祀られているそうです。

善養院の岩船地蔵

ところで、お地蔵様を調べているとき、これまで調べた文献のどこにも出てこない岩船地蔵と下津古久の天宗寺で出会いました。

そこで天宗寺に伺いお尋ねしたところ、文献に天宗寺の名前が出てこないわけを知ることが出来ました。

天宗寺の岩船地蔵はご住職の発案で、平成二年に建立されたかなり最近のものなのです。ご住職がお地蔵様を建立されるとき、各地の地蔵尊をいろいろとお調べになり、その中から、最もふさわしい子安地蔵として「岩船地蔵尊」を選ばれたという事でした。お地蔵様の足元には小さな子供が寄り添った姿が刻まれていました。

天宗寺の岩船地蔵

極めて短期間で各地に広まり、その後は時代の経過の中に眠っていた岩船地蔵が、270 年ぶりに厚木の地で子安地蔵尊としてよみがえっていました。

参考文献　歴史探索の手法ー岩船地蔵を追って（福田アジオ　ちくま新書５９５）
野津田村年代記（町田市史史料集　第５集（町田市史編集委員会）収録）
この年代記は享保年代に野津田村の名主を務めた村田又一という方が書かれたもので、当時の世相が記載されています。
神奈川の石仏ー近世庶民の精神風土（松村雄介　有燐新書）

最近の活動

日　時	場　所	内　容	参 加 者
緊急事態宣言により８月１４日に予定した定例会・勉強会は中止となりました			

令和３年８月・９月　行事予定

	日　時	行　事	会場・場所	内　容	申 込 先
８月	「最近の活動」のとおり				
９月	緊急事態宣言により９月 11 日（土）の定例会・勉強会は中止				
	16 日（木） 9:30～12:30	かながわガイド協議会 訪問ガイド	「神奈川宿に伝わる 浦島伝説」	神奈川新町駅 定員３名	サークルスクエア
	２５日（土） 9:00～16:00	観光客入込み調査 （観光協会と調整中）	市内５箇所	観光客動向調査	サークルスクエア
	30 日（木） 9:30～12:30	かながわガイド協議会 訪問ガイド	「鎌倉幕府執権」 北条義時の史跡を辿る	JR 鎌倉駅 定員５名	サークルスクエア

お願い　行事予定が決まりましたら、阿部あてメールでご連絡下さい。
　　提出期限は定例会の１週間前（編集会議と印刷のため）

編　集　後　記

巻頭の写真は七沢森林公園にある寸草亭です。森の民話館の奥に建てられた休憩所ですが、緊急宣言の出ている今は人影もなくひっそりとしています。

最近、ふと思い出して「ペスト」（カミュ著）を数十年ぶりに読み返しています。ペストの猛威に襲われた北アフリカのオランという港湾都市を舞台に都市封鎖された中で奮闘する医師リューとその友人たちや、行政、市民、宗教者、報道関係者、密輸業者について、ある人物が記録したという形で描いた小説で、第二次世界大戦でレジスタンスに参加していたカミュが、その経験をもとに書いた小説といわれています。

医師リューの「ペストと戦う唯一の方法は誠実さだ」あるいは「今の自分にできるのは職務を果たすこと」と語る姿は、現在に通じるものがあると感じました。

編集委員　阿部 啓冊　澤田 正弘　前澤 宣子